



1 日常会話をしながら施術の様子
3 事業所ロゴ

2 柔らかな日差しが差し込む施術ルーム
4 健康経営支援でアドバイスをする様子

“脳神経科学×身体”地域のリハビリセンター 健康経営支援サービスも提供

(株)TherapiCo (セラピコ) 代表取締役 理学療法士 小曽根 龍一氏

TherapiCo (緑区橋本) は、脳卒中などを患った人が障害者手帳や介護保険を利用して受けられるデイサービス (通所介護) とともに、保険による制限なく実施可能な自費リハビリ、整体サービスを手掛けています。自費のリハビリでは脳卒中だけでなく、パーキンソン病や脊髄損傷を患った人、人工関節を使う人のリハビリを支援しています。さらに近年は企業向けサービスとして健康経営支援も展開し、従業員の腰痛や肩こり、身体の痛みなどに対応しているのも特徴です。今回は理学療法士の小曽根龍一代表に、サービスや今後の展望について聞きました。

■脳卒中特化型リハビリ

TherapiCoは、脳卒中をはじめとする脳疾患を患った人向けの“脳卒中特化型リハビリセンター”としてのデイサービスを事業の柱として

います。「(保険適用の) デイサービスは脳卒中を患った方々がほとんどで、40、50代など若い方も通っています。また、自費のリハビリでは脳卒中やパーキンソン病などを

患った方、変形性関節症、外反母趾の方などさまざまです」と小曽根代表は説明します。

自費による整体サービスでは、脊柱側弯症や腰痛にとどまらず、スポーツのパフォーマンス向上やモデルの姿勢改善などを目的とした利用者もいるそうです。小曽根代表を含め、理学療法士が5人在籍しています。

「公的保険や障害者手帳で受けられるサービスと自費のリハビリ、整体のどちらも高いクオリティでサービスを提供できるのが当センターの売りです」(小曽根代表) と胸を張ります。

■「リハビリ難民」なくしたい

一方、小曽根代表は「脳卒中を患うと最長で半年間、病院で毎日リハビリが受けられます。しかし、退院後は40歳以上の人で介護保険を使用して週1、2回程度、40歳未満の人は、そもそも介護保険でリハビリすら受けられません。公的保険の範囲内では質・量ともに十分なりハビリが受けられるとは限りません」と指摘します。

こうしたさまざまな事情から、自分が利用したいリハビリを受けられない人々のことを、小曽根代表は「リハビリ難民」と呼んでいます。「自費でもよいから、質の高いリハビリサービスを受けたいという方々のために、当センターを立ち上げました」と振り返ります。

■健康経営の支援も

現在、同社が新事業として注力し

ているのが健康経営支援サービスです。背景にあるのは「健康経営」という考え方の広がりです。

小曽根代表は「従業員の健康は会社の資本といえます。健康経営が進むことで従業員はより高い幸福度を感じ、企業競争力の向上につながると考えられます」と話します。

具体的には、企業の福利厚生を対象に、出張施術や健康に関するワークショップ、セミナーなどの法人向けサービスを手掛けています。

「『この仕事をしている限りは、腰痛・肩こりはつきものだ』と諦めてしまっている人も多いですが、意外と改善できます。脳の仕組みを含めてアプローチしていくことが大事です。整体でも、こった筋肉をほぐせばその時は良くなりますが、いずれまた硬くなってしまいます。健康経営でも整体でも、『硬くならない体の使い方』を脳神経科学の知見を基

に進めていくのが弊社の強みです」と付け加えます。

さらに「脳を含めた人体というものは、組織論や経営学と非常に通じるところがあります。組織をヒトの身体に当てはめると、意外と課題解決のヒントが見えてくることもあります」と小曽根代表は語ります。

この健康経営支援サービスは、令和7年度相模原市トライアル発注認定制度で認定されました。そして地元相模原市でも、市の職員向け健康サポートを行うことになり、公的部門や地域にも健康経営支援を広げていく考えです。

(株)TherapiCo

〒252-0143
相模原市緑区橋本1-17-20-1F
TEL : 042-816-3180
<https://therapico.jp/>